

「プロジェクター」

宮杉 浩

今回お話しするテーマはプロジェクターです。プレゼンテーション、研究発表をはじめ、教育機関、一般企業を問わず様々な場面で活用されているこの装置についてお話ししましょう。

プロジェクターとはディスプレイの一種でモニタ画面の画像やテキストなどをスクリーンに投射する装置で、通常モニタのサイズでは不可能な300インチ以上の大きさを画面化することができます。プロジェクターはかなり以前から活用されており、かつてはオーバーヘッドプロジェクターと呼ばれる装置が主流でした。これは専用の装置にスライドなどの媒体をセットし、それを投影するというものでした。近年はパソコンやその他の映像出力装置との連動が容易なCRT式と液晶式に取って代わられています。CRT式とはディスプレイの方式で簡略にいうとブラウン管を利用したプロジェクターです。一昔前まではテレビもブラウン管だったのですが、いまやほとんどのテレビが液晶となり、パソコンのモニタも液晶が主流となっています。プロジェクターの方式もその流れを汲んだ変容を擁しています。現在の主流方式は前述の液晶方式とDLP(デジタル・ライト・プロセッシング)方式の二つです。液晶方式は透過型液晶パネルを搭載し、それで構成した画像をレンズで投射する方式で、DLPはDMD(デジタル・ミラー・デバイス)を利用したデジタル光処理技術を用いたもので今後もっとも普及が見込まれる方式です。

プロジェクターの最大の利点は前述の通り大画面に投射できることであり、教育機関、研究機関、一般企業ほか様々な場面で活用されています。特にMicrosoft社が開発、販売したプレゼンテーション資料作成ソフト「Powerpoint」が完全に市民権を得た現在、それで作成された資料の発表の場にプロジェクターは必要不可欠なものとしてその役割はますます大きくなっています。パソコンと簡単に接続ができ、ディスプレイ上にあるテキスト資料だけでなく、画像、動画、インターネット上のホームページなどあらゆるコンテンツを資料として活用できるようになったことは、授業・会議・学会の様相も変えることになったといえるでしょう。また、近年は低価格の家庭用ホームシアター機としてのプロジェクターも登場し、さらなる需要が見込まれます。

図書館でも利用ガイダンスやフォーラムでプロジェクターを利用しています。利用ガイダンスではより効果的な利用方法を視覚的に理解していただくために、フォーラムでは発表者の発表内容をより明確に伝えるために活用しています。今秋もフォーラム開催を予定していますので、ぜひ足を運んでいただけたらと思います。

最後に皆さんも授業のプレゼンテーション発表の機会などでPowerpointを使って資料を作成する機会も増えてきていると思います。資料作成のポイントとしては文字の大きさをどうするのかという点があります。プロジェクターで投影したときにどれぐらいの大きさで表示されるのか、内容を詰め込みすぎて読みづらい、見えづらいということが無いように意識して資料を作成していただけたらと思います。社会にでてからも資料作成のスキルは求められますので、ぜひ大学生の間に高めていってください。

みやすぎ ひろし(係長・管理運営課)